

Lead

All roads lead to the future リード



高知大学
Kochi University

コミュニケーションペーパー
2017 Spring 春号

¥0
TAKE FREE

〈特集〉

高知の紙産業を取材する

新聞づくりで学ぶ、 情報のチカラ



新入学生へのメッセージ
学長・学部長からのメッセージ

ぼくらのキャンパスライフ
3人の現役学生に、
学生生活を聞きました。

まなびの時間
ピアサポート理論と実践

Action! 地域×高知大学
室戸 自然の家
ボランティアリーダー

高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション Event information 2017 Spring 春号

オープンキャンパスのお知らせ

平成29年度のオープンキャンパスは、8月5日(土)、6日(日)に開催いたします。企画の内容、日程等の詳細は、決まり次第、順次ホームページに掲載します。(7月上旬に掲載予定)

朝倉キャンパス



8/5(土)
8/6(日)
オープン
キャンパス

岡豊キャンパス



物部キャンパス



3つのキャンパスで
実際の高知大学を
体感してください。



ホームカミングデーのお知らせ

高知大学卒業生の皆様、第8回目となるホームカミングデーは、11月4日(土)に開催します。詳細は、7月頃に大学ホームページでお知らせする予定です。ぜひご参加ください。

様々な企画を準備して卒業生の皆様をお待ちしています。在学生も参加できます。お誘いあわせの上、お越しください。



11/4(土)
黒潮祭と
同時開催



ホームカミングデーにて
記念講演会をされた
元厚生労働事務次官
村木厚子氏

メルマガ
配信中!
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガジンを配信しています。大学の「入試情報」から「あれこれ(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigakujc.jp/kochi-u>



お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学総務課
高知大学
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

平成29年度学年暦 (予定)

Campus schedule
高知大学の授業等に関する年間スケジュールです。

4月~6月

4/3(月)	入学式
4/4(火)	新入生オリエンテーション
4/5(水)	在来生オリエンテーション
4/6(木)~8(土)	第1学期履修登録期間
4/12(水)	第1学期授業始

7月~9月

8/1(火)~7(月)	第1学期試験期間
8/5(土)・6(日)	オープンキャンパス
8/8(火)~31(木)	夏季休業
9/1(金)~30(土)	特別授業期間
9/20(水)	秋季修了式
9/25(月)~27(水)	第2学期履修登録期間

10月~12月

10/1(日)	創立記念日
10/2(月)	第2学期授業始
10/7(土)・8(日)	南風祭(岡豊キャンパス)
11/3(金)・4(土)	黒潮祭(朝倉キャンパス)
11/3(金)	物部キャンパス1日公開
12/27(水)~1/8(月)	冬季休業

1月~3月

1/13(土)・14(日)	大学入試センター試験
2/1(木)~7(水)	第2学期試験期間
2/8(木)~28(水)	特別授業期間
3/1(木)~31(土)	学年末休業
3/23(金)	卒業式・修了式

高知大学の最新情報を伝えたい
THE こうち
ユニバーシティCLUB

FM 高知 毎週日曜日 放送中
81.6MHz (9:30~9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!
http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm Kochi/
高知大学の教育、研究、地域貢献等の
ホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
高知銀行/ソフテック/アークエステート



新聞づくりで 学ぶ、情報のチカラ

人文社会科学部
課題探求実践セミナー

土佐和紙に代表される、高知の紙産業。そこに学生たちが記者として取材に入り、新聞づくりに取り組みました。

高知の姿を知るために 紙産業にフォーカス

製紙会社などを取材して新聞記事を作成する、その名も「高知の紙」という名称の講座。全学部必修の共通教育の「課題探求実践セミナー」の選択講座のひとつです。人文社会科学部人文社会科学コースの教員が中心になって指導する5日間の集中講座で、昨年は9月5～13日にかけて行われました。

「高知の紙産業は意外とすごい！」ということを実感する講座です。高知県は、課題が多い。元気がないなどのイメージを持たれがちですが、じつは全国でも有数の産業もあります。

訪れることが決まっていました。学生は開講の1カ月前に、訪問先の企業の会社案内などを資料として渡されています。そして講座の1日目…。

この日は、まず渡された資料などを使って、記事を書いてみようというものです。学生は3、4人組で13グループに分かれて記事制作に取り組み、発表を行いました。しかし、どのグループも内容がほぼ同じ。6グループ目ぐらいで、発表を聞くのに飽きてきたほどだったそうです。海野先生は心の底で、ニヤリと笑っていたかもしれません。

「これは狙い通りでした。企業について追加で調べてもOKとは言ってあったのですが、手持ちの資料の域を出ないものばかり。学生には「与えられた情報を切り貼りするだけならば、画的な記事しかでてこない。自分達は何を伝えるべきかを深く考えないといけない」と言いました。いま、アメリカのトランプ大統領の「フェイクニュース」という言葉が注目されています。海野先生によると、これが典型的な例だそうです。



正しい情報を伝える力が
今の時代に
求められている！

そのひとつである紙産業にフォーカスして、地域の違った見方を学生たちに実感してもらいたいと思いました」

講義を担当するひとり、海野晋悟先生は講義の目的をこう話します。県外の学生はもちろん、高知県出身の学生にもあまり知られていない高知県の紙産業。しかし、世界的なシェアを誇る企業もあります。

「土佐和紙を源流とし、その技術を応用して先進的な製紙製造が展開していった一方で、昔からの製造方法を守った製造も行われています。伝統的工芸品と最先端製品が並び立つ高知の紙産業は、全国的にも非常に特徴的な産業です。その現場を実際に見ることで、今までの高知のイメージを疑ってみる。あるいは、自分の生まれ育った地域はどうか振り返るきっかけになればと思いました」

この講義には、ほかの授業にはないもうひとつの特徴があります。それは、紙産業を取材し、「人はついつい、自分に都合のいい情報だけを受け入れがちで、フェイクニュースに踊らされてしまいます。情報を受け取る側として正しい情報か疑問を持ち、情報を出す側として情報を丁寧に対してもらう、そのために、情報の取り方、処理の仕方、使い方をこの講義で考えてほしい」と思い、最初の講義でシヨクを与えました」

情報の大切さを身を持って体験し、そこから高知は元気がないという情報に疑問符が付いた1日目の講義。2日目は取材の仕方、論理的で適切な文章の書き方のレクチャーを受け、学生たちは企業取材に臨みました。

独自の視点をもって 企業に切り込む

3日目、最初に訪れた企業は高知新聞社です。

「企業取材にあたって、記者としてのモチベーションや新聞はどのように作られているのかを、学生たちに知ってもらうことを意図していました。学生のなかには、新聞社も紙産業のひとつだという面白い観点から取材を行った者もいましたね」

実際に記者の方に話を聞いたほか、学生側からも質問を投げかけ、情報の入手の仕方などに答えてもらいました。訪問時には多くの記者が取材に出ており、社内に残っていたのは数人。こうしたジャーナリズムの現場を目の当たりにして、情報を得るには机の前に座って資料を見ているだけではだめなのだ気がついた

新聞記事の形にまとめることです。

「学生の多くが、ツイッターなどで情報を発信しています。しかし、もともと大人の言葉で、一般の人に通じるような言葉で、わかりやすく説得力のある文章を書くためにはどうすればいいか。新聞の論理的な文章を書く技術を身につけるために、記事という形で自分の感動したこと、考えたことを盛り込むようにしました。近い将来、卒論を書くためのいい練習にもなると思います（笑）」

情報に疑問を持ち 自ら情報を集める

講座では高知新聞社と製紙会社2社、土佐和紙について学ぶために町の町紙の博物館を

学生もいたようです。

4日目は、いよいよ企業取材。グループを2つに分け、それぞれ「ニッポン高度紙」と「廣瀬製紙」を取材。併せて町の町紙の博物館で土佐和紙の製造方法について学びました。企業に何を聞くかをあらかじめ考え、企業の担当者に質問。その答えや情報を持ち寄り、グループで1本の記事制作に取り組みました。

「初日で、記事が二辺倒になる危険があることを認識できました。これを踏まえて、各企業に対してどのような質問を用意するか、どういった記事づくりを行うか、独自の視点から事前に考えを練ったグループが多かったですね」

最終日の5日目に記事を作って、発表しました。

「出来上がった記事は、1日目と比べて雲泥の差。与えられた情報以外に、取材によって自分たちが入手した情報を使って、切り口が明確な記事に仕上がっていました」

記事は、高知新聞社の記者の方に講評を行ってもらい、「プロの目から見ても、最初の記事に比べて成長している」と評価してもらったそうです。

「ある学生からは『こんな世界シェアの企業が高知にあるとは』という驚きの声がありました。今回の講座が、高知を見直すきっかけになったと思います。平成29年度も開講するので、もっと内容が充実するように今から計画をしています」と意気込みを話してくれました。



伝えたいことが
はっきりしていれば
発表内容にも
説得力が増します

記事にすべき内容は
話し合いを重ねて
絞っていきます

同じテーマでも、何を聞き、
どうまとめるかが
重要です！

情報に溢れる
今の時代にこそ
新聞が必要なんです！

PROFILE

教育研究部 人文社会科学系
人文社会科学部 講師
うみの しんご

海野 晋悟

兵庫県出身。神戸大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。専門はマクロ経済学。「学生たちは見出しを立てるのが本当にうまい！人を引き付けるタイトルが書けるのは、ツイッターで短文を書き慣れているからでしょうね」



高知大学に しかかない 学びがある。



高知大学 学長
わき ひろし
協口 宏

高知大生よ、地域から世界へ羽ばたけ

高知大学は、我が国初の「地域協働学部」が平成27年度にスタートし、高等教育に革命的な新風を吹き込んでおり、今年度の「理工学部」スタートで全学教育組織改革が一段落しました。現在、平成30年度設置を目指している「教職大学院」をはじめとする大学院改革と共通教育改革を進めているところです。

高知大学は、「良き教育は優れた研究に基づく」を教育理念として、「総合的教養教育」「地域協働による教育」と「文理統合教育・研究」を推進しており、知・技を内面で統合し、社会と人を知り、広い視野に基づく発想力・課題発見力、実学と地域協働学を基盤とする課題解決力を育成して、社会に働きかける教育を実践しております。AI社会と国際社会で活躍するには、自己アイデンティティの確立、自律性と自己責任、文化・教養力、傾聴・共感力、語学力

などに加えて、広い視野と点を見極める「鳥瞰力」等が必要で、これらの能力は普遍的に求められる能力ですが、これら以上に重要な能力は「失敗できる力」と想像力、洞察力、推理力などを含めた「直感力」です。これらの能力を涵養する上で「研究」に勝る学びはありません。研究の第一歩は「何故だろう？」「それは本当か？」と疑問を感じて深く学ぶことから始まります。卒業研究で「七転び八起き」の苦闘を経験されることを期待しております。

高知大学は、「地域から世界へ、世界から地域へ」往還的な発想と確実な行動力を備え、地域で活躍することが世界に羽ばたく起点となるようなグローバル人材を育成する教育・研究を推進します。世界へ羽ばたかために、自分を知り、高知を知ることから始めましょう。

医学部

医療人になる前に
よき人間になれる

医療人は、人の命を預かる仕事であるためミスは許されません。このため、日進月歩の医学の進歩に合わせ生涯にわたり自己研鑽を続ける強い意志と能力、常に患者さん中心の立場にたち、他の医療スタッフを尊重する思いやりと責任感が必要です。つまり、強さと優しさを兼ね備えた人間でなければなりません。学生時代は、まず、人間の土台作りから励んでください。



医学部長
ほんけ こういち
本家 孝一
■所属
医療学系 基礎医学部門・教授
■専門分野
医学／生化学
医学／糖鎖生物学

理工学部

基礎と応用の
両輪を学ぶ

理工学部一期生の皆さん、私が大学の4年間で身につけて欲しいと思っている能力の一つに、「課題発見・課題解決能力」があります。この能力は、共通教育、基礎と応用の両輪を学ぶ専門教育、課外活動、そして4年間の皆さんの日常生活を通して培われる総合力です。4年間の過ごし次第で、卒業時の能力が決まってくるのです。充実した大学生活を過ごして下さい。(字:治子)



理工学部長
すずき ともこ
鈴木 知彦
■所属
自然科学系
理学部門・教授
■専門分野
生化学

教育学部

子どもに寄りそえろ
教師になろう

教育学部は、幼・小・中・特別支援学校の幼児・児童・生徒の成長・自己実現にとって、今ここで必要な内容・方法を長期的で広い視野から見抜き、実践できる教師を養成します。理論と実践の往還により実践的指導力を身につけるカリキュラムと、卒業後の進路を適切に選択するための学生支援体制を整備しています。



教育学部長
ふじた えいじ
藤田 詠司
■所属
人文社会科学系
教育学部門・教授
■専門分野
社会科教育学

土佐さきがけプログラム

幅広い知識と視野で
世界を目指せ!

土佐さきがけプログラムの各コースが軸足を置く学問分野はそれぞれ異なりますが、いずれのコースでも、関連する様々な分野の学問を横断的かつ総合的に学ぶことができます。幅広い知識を統合して物事を考える力と社会への発信力を身につけ、現代社会が抱える様々な課題の解決に、グローバルな視点で積極的に取り組む人材に成長して下さることを期待しています。



運営委員長
いわさき まさみ
岩崎 貢三
■所属
総合科学系
生命環境医学部門・教授
■専門分野
植物生育環境学

地域協働学部

協働的学びで「地域協働」
のリーダーを目指せ!!

地域協働学部では、学生同士、教員と学生、そして地域と学生による協働を通じて地域協働のリーダーを目指します。(1)実習では、地域の人たちとの協働を通じて、徹底的に地域に向き合い、600時間に及ぶ実践的学びを行います。(2)演習では、教室での学びと実習での学びを活かして「地域」や「協働」に関する自らの理論を構築し、それを学年末論文にまとめます。一緒に頑張りましょう。



地域協働学部長
うへだ けんじ
上田 健作
■所属
総合科学系
地域協働教育学部門・教授
■専門分野
非営利組織論・公益事業論

農林海洋科学部

高知に遊び
高知に学ぶ

農林海洋科学部は、天然資源を活用して人間社会の食とくらしと環境を支えることを目標として、従来の農学に、莫大な未利用資源の存在が明らかになっている海洋科学の視点を加えて平成28年春にスタートしました。高知県は、山から深海に至る実学教育のフィールドが身近にすべて揃っており、この学問領域を学ぶに格好の地です。高知で過ごすことのすばらしさを自身で体感してください。



農林海洋科学部長
おがた つねお
尾形 凡生
■所属
自然科学系
農学部門・教授
■専門分野
果樹園芸学

人文社会科学部

人間は何処に向かうんだ!?
この叫びに響け

人文社会科学部には、哲学・思想、心理、歴史・地理、文学、文化・地域・言語の多元性、経済、経営、法律・政治をキーワードとする“学びのコア”があります。ここに学ぶ人たちは、これらの“コア”を基に自分の専門的教養を磨いていきます。と同時に、その専門は(人文社会科学領域)の幅広い教養と結びついて互いに“架橋”し、交じり合う学びの中からは柔軟な発想力が生まれていきます。



人文社会科学部長
よしお ひろし
吉尾 寛
■所属
人文社会科学系
人文社会科学部門・教授
■専門分野
中国近世近代史

朝倉キャンパス

南国らしいヤシの木が目印。正門から続く通りは、学生たちの憩いの場所です。
●人文社会科学部 ●教育学部 ●理工学部 ●地域協働学部



人文社会科学部1年 かん さき はる ひ 神崎 陽日さん

Q サークル活動について
私は剣道3段で、大学でも剣道部に入ろうと決めていました。練習は日曜以外の毎日。昨年は中四国の新人戦に中堅で出場して優勝しました。実は、私の両親は共にこの剣道部の部員でした。高知大学に進学したのは、両親の影響もあるんです。

Q 将来の目標は?
高校の古典の先生になるのが目標です。人文社会科学部を選んだのも、高校の教員になるための古典や国語を深く学べるから。1年生では共通教育を学んできましたが、そのなかでも『源氏物語』に関する授業は興味深かったですね。

Q アルバイトは?
週1~2回、飲食店でアルバイトをしています。お店の自慢は魚料理。高知は魚が本当においしいですね。バイトを始めてから、私も魚が大好きになりました。一番好きなのは、「オジサン」という妙な名前の魚です。

南国高知らしいヤシの木が並ぶメインストリート。



高知大学生協 IKUS

3つのキャンパスで学ぶ
3人の現役学生に、学生生活を聞きました。

ぼくらのキャンパスライフ

高知大生の今にエール!



高知龍馬空港のすぐ近くです。



瀬北フィールド(演習林)



水田



勉強に役立つスペースです。

医療が学べる様々な施設があります。

育てた農作物は大学内で販売しています。

時計が目印の図書館。

みんなが盛り上げる南風祭。

物部キャンパス

高知龍馬空港の近くにある物部キャンパス。自然いっぱいの広々としたキャンパスが魅力的です。
●農林海洋科学部

Q 将来の目標は?
研究室で学んできた水族館学を活かして、種苗生産や養殖業など、水産系の仕事に就きたいと思っています。そうしたなかでも、第一希望は水族館の職員。求人少ない狭き門ですが、インターネットなどで積極的に情報収集しています。

Q 寮生活について
1年生の時は朝倉の南漢寮、2年生から物部の日章寮に入っています。現在、副寮長で、新入寮生向けの行事を取り仕切っています。寮生活は本当に楽しい。いろいろなコースの学生がいるので、魚や野菜をたくさんもらって自炊しています(笑)。

Q 高知での暮らしは?
田舎暮らしをしたいと思って、高知大学に進学しました。想像以上に自然が豊かで、休みの時には自転車よく遠出して、河原などでキャンプをしています。寒い2月、誰もいない河川沿いでテントを張り、焚火をした時は最高に楽しかったですね。



農学部農学科3年 うさ た しゅう へい 上田 修平さん



日章寮



メディアの森



学術情報基盤図書館2階(アクティブラーニングスペース)



周産母子センター



大学院研究棟



広い敷地に立ち並ぶ施設

岡豊キャンパス

医学を志す学生が集う岡豊キャンパス。敷地内には附属病院があります。
●医学部・附属病院

Q 大学で学んでいることは?
病気について学ぶのは3年生からで、いまは正常な時の人体の機能と仕組みについて学んでいます。ある種のホルモンが過剰に分泌されないように、別のホルモンが調節している...といったような、人体の不思議なメカニズムに感動します!

Q サークル活動について
水泳部に入っています。昨年、「西日本医科学生総合体育大会」で総合3位。今年は1位を目指して頑張っています。練習は週3回、1日2時間ほどで、4~5kmほど泳ぎます。練習の後、みんなでご飯を食べに行く「部メシ」も楽しいですね。



医学部医学科2年 やま た とも ひろ 山田 智大さん

Q アルバイトは?
週2回、中学を受験する小学生の家庭教師をしています。その子の自宅に行って教えるのではなく、パソコンを使って、オンラインで個別指導。ある程度、自分でスケジュールを調節できるところが気に入っています。



みんなが盛り上げる南風祭。



ヒポクラテスの木



古代ギリシャの医師ヒポクラテスの誓いは受け継がれています。



海洋コア総合研究センター

海洋研究も行っていきます。



物部キャンパスのアイドル、土佐あかうし。

「ピアサポート理論と実践」
その時のために
誰かをつながる、

「ピアサポート理論と実践」
その時のために
誰かをつながる、

実践の積み重ねで
ソーシャルスキルを身につける



「授業では理論だけでなく、具体的な方法にまで掘り下げ、そのうえで、実践に移せるような仕掛けを盛り込みます。コミュニケーション力（専門用語でいうソーシャルスキル）は、毎日トレーニングすれば必ず身につくと考えられています。そこで、授業では知識だけではなく、実際に使える方法を意図的に取り入れています」

講義の終盤では、授業の中で学んだことや実践したことなどを、学生がプレゼンテーションします。講義を通して、「人に対して積極的にになった」「自分から声をかけられるようになった」という感想を話す学生も多いそうです。

「目指しているのは、場をつくれる人です。知らない人と初めて会ったときに居心地のいい雰囲気をつくるのができると、相手との関わり合いが深くなります。こうした場をつくれる人になれるよう、講義を通して学びを深め、実践を重ねてほしい。この講義で学んだ知識や実践は、仕事を問わず、社会で役に立つと思います」

支えあいは、気持ちを通じてこそ成り立つもの。そのためのスキルを磨き、より人との関わりを広げていく、その第一歩を踏み出すのが、「ピアサポート理論と実践」の講義です。



先生に聞きました!

PROFILE

大学教育創造センター 特任准教授
すぎた いくよ
杉田 郁代
広島県出身。兵庫教育大学大学院生徒指導コース修了。修士(学校教育、文学)。臨床心理士と学校心理士の資格を持つ。比治山大学を経て、2015年、大学教育創造センターに着任。「モットーは、学生を人からかわいがられる大人に育てたいということ。そのために今、学ばなければいけないソーシャルスキル、コミュニケーション・スキルは何かということを教えてくださいませ」



子どもたちが伸び伸びと
自然体験できるように

高知県東部に位置し、世界ジオパークに認定される豊かな自然にあふれる室戸市。この恵まれた環境を生かし、海山の自然体験活動を通して、「規律・協働・友愛・奉仕」の精神を子どもたちに育むことを目的とした施設が「国立室戸青少年自然の家」(以下、自然の家)です。

この自然の家で、子どもたちの活動をサポートする組織が「室戸自然の家ボランティアリーダー」(以下、ボランティアリーダー)。高知大学の学生約80名をはじめ、高知県立大学と高知工科大学も加わった県内3大学の学生が活動しています。この活動に「ハマッタ」というのが、田辺秀さん(教育学部3年)、上田恵利那さん(教育学部3年)、栗林太郎さん(理学部3年)。この3人に話を聞きました。

ボランティアリーダーの活動は大きく分けて2つ。自然の家が主催する事業にボランティアとして参加する場合と、自主事業を開催する場合です。自然の家の事業には親子での自然体験もあれば、子どもだけが対象のものもあります。

「ボランティアリーダーはそのどちらにもサポートするのですが、特に子どもたちのみが参加する事業では、体験を通じて子どもたちの成長をいかに

Action!
地域×高知大学



子どもたちに、学校ではできない体験を

「授業では理論だけでなく、具体的な方法にまで掘り下げ、そのうえで、実践に移せるような仕掛けを盛り込みます。コミュニケーション力（専門用語でいうソーシャルスキル）は、毎日トレーニングすれば必ず身につくと考えられています。そこで、授業では知識だけではなく、実際に使える方法を意図的に取り入れています」

講義の終盤では、授業の中で学んだことや実践したことなどを、学生がプレゼンテーションします。講義を通して、「人に対して積極的にになった」「自分から声をかけられるようになった」という感想を話す学生も多いそうです。

「目指しているのは、場をつくれる人です。知らない人と初めて会ったときに居心地のいい雰囲気をつくるのができると、相手との関わり合いが深くなります。こうした場をつくれる人になれるよう、講義を通して学びを深め、実践を重ねてほしい。この講義で学んだ知識や実践は、仕事を問わず、社会で役に立つと思います」

支えあいは、気持ちを通じてこそ成り立つもの。そのためのスキルを磨き、より人との関わりを広げていく、その第一歩を踏み出すのが、「ピアサポート理論と実践」の講義です。

促すかを考えたサポートを心がけます」と上田さん。例えば、地域の子どものために自然の家から小学校に通う泊7日の「ふれあい通学合宿」では、学校から帰ってきた子どもたちの時間を支えます。

「事業にはそれぞれ狙いがある。ふれあい通学合宿では子どものコミュニケーション能力の向上や規則正しい生活の習慣づけを目指します。僕たちは一緒に生活するなかで、狙いが達成できるようマネジメントしていきます」と栗林さんがボランティアリーダーの役割を説明します。

ボランティアリーダーの存在は、「先生」と「お兄さん」お姉さんの中間だと言います。先生のように指導や教育に重点を置くわけでもなく、遊び相手に終始するわけでもありません。

「例えば、ひとりだと心細い子もいます。そんなとき、ほかの子とつながるためのきっかけ作りをボランティアリーダーが行います。また安全に活動できるよう、僕たちが近くで見守っているからこそ、子どもたちはのびのびと自然体験をすることができるとも思います」と田辺さん。

ボランティアリーダーの存在が、子どもたちの体験を安全で豊かなものにしていきます。

成長の場になる自主事業の開催

ボランティアリーダーのもう一つの大きな活動が、自主事業の開催。1泊2日のプログラムのすべてを、自分たちで企画、実施します。

「今年1月に行った自主事業では、遊びの幅を広げることを目標にしました。今の子どもたちはゲームなどの影響で、ひとり遊びをすることが多くなっています。そこで、集団の遊びのおもしろさを体験してもらいたい、という意図で企画しました(栗林さん)

自主事業は、半年前から準備。事業の目的を決

室戸自然の家
ボランティアリーダー
メンバー募集中!

おもな活動場所は、海あり、山あり、星空あり、高知の自然がぎゅっと詰まった国立室戸青少年自然の家です。自然の家では四季に応じて様々な事業を行い、幼児から高校生まで幅広い年代の子どもたちが参加しています。そんな子どもたちの成長を支える活動を、一緒に始めませんか!

問い合わせ
murotovolunteer@gmail.com



左から田辺さん、上田さん、栗林さん

高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)化事業が 文部科学省から最高のS評価を受けました!

県と大学が一体となって
地域と共に歩むために

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」について、このたび平成28年度評価が公表され、高知大学は「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。」として最高のS評価(採択機関76大学、S評価は7大学・9.2%)を受けました。

優れた点として評価を受けた点は次のとおりです。

【優れた点】

- 地方総合大学の国立大学法人と地方公共団体の連携を進める場合の模範となる取組であり高く評価できる。
- 学長のリーダーシップの下、全学的な教育組織改革を行い、新学部(地域協働学部)の設置、全ての学部が地域志向を念頭にいたカリキュラム改革をするなど、大学改革につなげており評価できる。
- 地域に地域コーディネーターを配置し、それを有効に活用して課題解決につなげるなど、地元との連携が着実に図られており評価できる。

～高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS: Kochi University Inside Community System)化事業～

高知県の大学等のキャンパスは県中央部に集中しており、遠隔地域の詳細なニーズ収集や、地域との密な情報交換に基づく連携活動を行うことが困難な状況にあります。この状況を克服するため、高知県が県内7か所に設置する産業振興推進地域本部に高知大学サテライトオフィスを併設し、本学教員(UBC: University Block Coordinator)を常駐させ、産業振興推進地域本部に常駐する高知県地域産業振興監と共に活動することで、県と本学が一体となって限なく地域と向き合い、地域と共に歩む役割を果たせる体制を構築するものです。

全国ネットワーク化事業 平成28年度 COC/COC+全国シンポジウム「地方創生と大学」(3月6日～7日)

全国ネットワーク化事業の今後の発展を目指して

3月6日～7日、「全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム『地方創生と大学』」を高知市内で開催し、全国の大学や県内自治体関係者約400人が参加しました。

本シンポジウムは、文部科学省が進める「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」の一環として、平成25年度から本学がとりまとめ校として開催してきました。全国で地方創生に取り組む大学等が集結し、各地の取組の情報共有と課題解決に向けた意見交換が行われ、大学の地域貢献活動の全国的な底上げが図られました。

シンポジウムの初日は、脇口宏学長の主催者挨拶、尾崎正直高知県知事の開催地挨拶(代読)、文部科学省松尾泰樹大臣官房審議官(高等教育局担当)の挨拶に続き、全国的な地方創生の流れや国の動きについて前地方創生担当大臣の石破茂氏から特別講演をいただき、また、産業界の立場から、株式会社小松製作所相談役の坂根正弘氏より、デフレ脱却と地方創生に関する基調講演をいただきました。その後に行われた基調討論では、社会技術研究開発センター、高知県産業振興センター、株式会社Nextremerからパネリストをお招きし、「先進技術と地方創生」をテーマにご議論いただきました。

また、2日目には、高知大学を含む4つのCOC実施機関による事例報告が行われ、事業成果の情報共有を図るなど全国ネットワーク化事業の今後の発展を強く感じさせる内容となりました。



基調討論の様子



坂根正弘氏による基調講演

石破茂氏による特別講演

今後、大学に求められる教育の
質保証の仕組みの構築を目指して

3月3日に高知市内で「質保証の基盤構築に向けた「地域協働による教育」の多面的評価指標の実践的検証」と題して高知大学大学教育再生加速プログラム(A.P)キックオフシンポジウムを開催し、約100名が参加しました。

本学は文部科学省の平成28年度大学教育再生加速プログラム(A.P)テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」に採択され、現在高等教育で求められている質保証の仕組みについて、IRや学修成果の可視化の観点から議論し、課題の共有を図ることを目的に実施しました。

シンポジウムでは、脇口宏学長の挨拶に始まり、文部科学省高等教育局大学振興課の河本達毅氏、茨城大学の葛田敏行氏による基調講演に引き続き、本学の藤田尚文理事による高知大学のA.P取組報告、ベネッセ教育総合研究所の岡田佐織氏による共同研究報告を行いました。さらに、各講演者のほか、報道関係者、高知県教育委員会を交えたパネルディスカッションでは、様々な視点からの情報提供や意見交換が行われました。



学長の挨拶



パネルディスカッションの様子

高知大学研究顕彰制度授賞式

教員、若手研究者 及び大学院生 8名を表彰



- 研究功績者賞
- Darren Lingley 教授(人文社会科学部)
 - 清水 孝洋 准教授(基礎医学部)
 - 福原 秀雄 助教(臨床医学部)
- 若手教員研究優秀賞
- 難波 卓司 准教授(複合領域科学部)
 - 宇田 幸司 講師(理学部)
 - 橋田 裕美子 助教(基礎医学部)
- 大学院生研究奨励賞
- 古木 隆寛 氏(教育学専攻 修士課程)
 - 劉 南希 氏(医科学専攻 修士課程)

2月1日(水)に、高知大学研究顕彰制度に基づき、特に優れた研究を行った教員、若手研究者及び大学院生を表彰しました。

この研究顕彰制度は、優れた研究を行った者を学長が表彰することにより、研究業績者、若手教員及び大学院生の研究意欲の高揚を図り、本学における研究の活性化と一層の発展を目指すことを目的としています。

平成28年度は、今後の活躍の発展性が期待される研究者として、研究功績者賞3名、若手教員研究優秀賞3名、大学院生研究奨励賞2名の方々が受賞されました。

平成28年度 高知大学 卓越した学業等成績優秀者授業料免除 決定通知書交付式

学部学生24名、大学院生32名に 免除決定通知書が交付

高知大学では、既存の授業料免除制度に加え、大学・大学院を卒業・修了する学生を対象に、優れた成績や研究成果を残した学生を「卓越した学業等成績優秀者」として、授業料の年額を免除する制度を設けています。本年度は、学部学生24名、大学院生32名に免除決定通知書を交付しました。



本年度の学業成績優秀者集合写真(平成29年3月7日)

岡村特任教授高新大賞を受賞

防災推進センター 岡村真特任教授が「第24回高新大賞」 を受賞しました

防災推進センター 岡村 真 特任教授は、長年の地震地質学の発展に寄与したことや、県民の防災意識を高めた功績が高く評価され、「第24回高新大賞」を受賞しました。「高新大賞」は、様々な分野で高知県を元気づける活動をしている個人や団体を対象に、高知新聞厚生文化事業団が平成6年から毎年1件選定し贈呈している賞です。



地域貢献大賞を受賞

学生ボランティア団体MBが 地域貢献大賞を受賞しました

日本で初めて限界自治体に指定された高知県長岡郡大豊町(八畝集落)で地域活性化に向けて活動している学生ボランティア団体「MB」(顧問:農林海洋科学部瀨田和俊講師)が、若者の社会貢献活動を表彰するプロジェクト「YOUNG JAPAN ACTION 2016」(住友生命保険主催)の大賞に輝きました。受賞は、地域の伝統野菜「地キビ」を活用した焼酎の商品化や耕作放棄地に日本一のジャコヤク園を作ることによる観光資源化などが高く評価されたものです。



学生ボランティア団体MBと愛媛大学・松山大学の学生らとの交流時の写真(平成29年1月22日)

「高知大学修学支援基金」への寄附のお願い

本基金は、修学意欲を持ちながら、厳しい家計状況によりそれを断念せざるを得ない学生に対して給付する奨学金として活用します。

- 問い合わせ先 高知大学総務部総務課
TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp
URL:http://www.kochi-u.ac.jp/shugaku-kikin/
- 「高知大学修学支援基金」及び「高知大学さきかけ志金」(教育・研究・社会貢献活動による支援)に寄附を行う際に、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

